

経営比較分析表

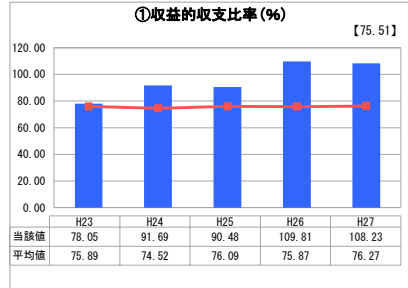
岐阜県 八百津町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	17.90	4,384

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,618	128.79	90.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,065	17.70	116.67

グラフ凡例
■ 当該団体の値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



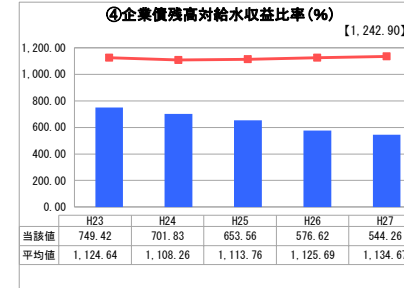
「単年度の収支」



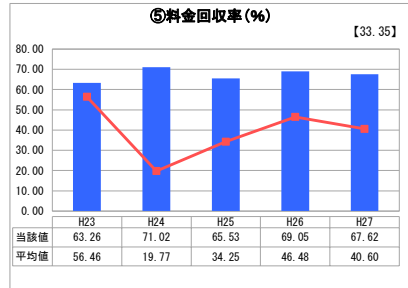
「累積欠損」



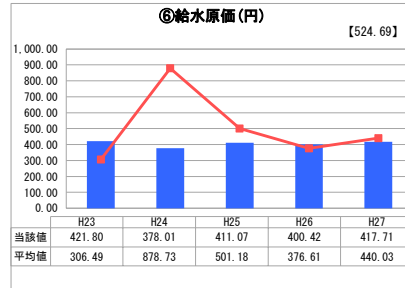
「支払能力」



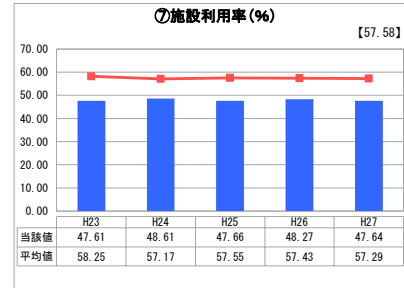
「債務残高」



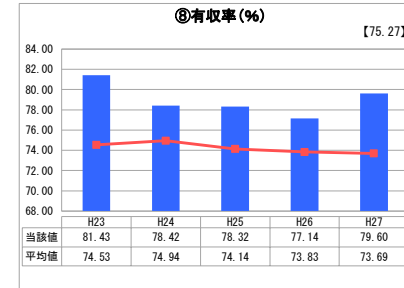
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

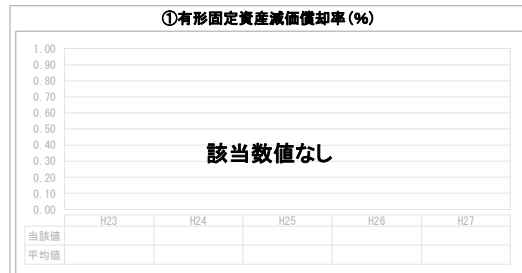


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

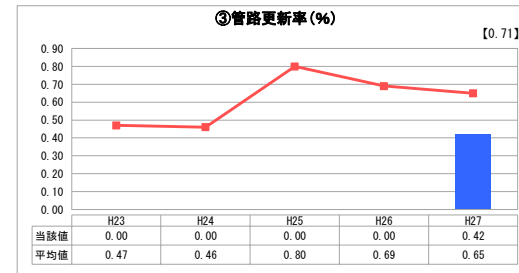
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水区域面積が広いため、久田見浄水場、潮南浄水場、篠原浄水場の3つで水を供給しています。しかし、給水人口密度は116.67人/km²と八百津町水道事業の739.53人/km²と比較してみましても低いことがわかります。また、施設利用率についても全国平均からは10ポイント程低く、効率の良い運営ができていないと言えます。

料金回収率は他の類似団体と比較すると若干高い部類ではありますが、100%を下回っていると給水収益だけでは事業運営ができていないことを意味するため、支出の不足分は一般会計からの繰入金に頼った経営となっています。料金収入が伸び悩んでいるため、漏水修理を行い収益に結びつかない無駄な経費の削減に取り組んでいます。

現在取組中の簡易水道統合事業において、篠原地区・本郷地区を潮南浄水場の給水区域に加えることで、篠原浄水場の廃止(ダウンサイジング)が行え、施設利用率の増加が見込めます。

また、平成29年度に上水道企業会計と統合し、公営企業法を適用することによって、八百津町全体の水道事業の運営状況をより詳細に把握することができます。このことを踏まえた上で、将来に渡り安定したサービスの提供に努めます。

2. 老朽化の状況について

昭和51年3月から供用を開始し、事業拡張を行うことで配水区域を広げていきました。管路についてはGISシステムをもとに老朽管を把握し、順次更新を行っています。老朽化は漏水の原因となるため、布設替工事を行うことで有収率の向上にもつながっています。電気、機械設備についても毎年点検を行い、点検結果に基づき、計画的な修繕・更新を行っています。

全体総括

平成31年度に篠原浄水場の廃止によるダウンサイジングを行い、限られた財源・資産を有効に活用することで、長期的に安心で安全な水を供給することにつながります。

また、平成29年度に上水道企業会計と統合し、公営企業法を適用することによって、経営の見える化を行います。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。